



ユネスコスクール便り

令和3年3月5日

No.104 大牟田市13校スクール
担当者通信

つながりを大切にし、

かかわりを深める児童生徒の育成



特色ある実践事例の紹介

今号では、各学校で取り組まれている特色ある実践事例を紹介いたします。

福祉の大切さ ～車いす・高齢者疑似体験を通して～

甘木中学校



甘木中学校は、SDG 3「すべての人に健康と福祉を」の視点を重点として設定し、1年生では、福祉学習「アイマスク体験、車椅子体験」に取り組みました。

まず、甘木中校区内の施設（サンファミリー、天光園）の方にGTとして来ていただき、「『バリア』のないまちとは…?」「福祉とは…?」をテーマに講話をしていただきました。施設の方の講話から、介護施設で働いている人の思いを理解し、福祉の重要性を考えることができました。また、生徒たちは、アイマスク体験、車椅子体験などの活動を通して、「介助」のや「高齢者福祉」に対して、自分にできることは何かを考え行動につなぐ機会となりました。



アイマスク体験
に取り組む生徒

日本とマラウイをつなぐ思いやりのかけ橋

白川小学校



白川小学校では、毎年「ペットボトルキャップ回収活動」を通して、開発途上国の子どもたちへの支援を行っています。今回は、「iサイクル」と「ISAPH(アイサップ)」による支援活動の一環で、アフリカのマラウイとの交流を行いました。白川小学校で集まったペットボトルキャップは約121kgで、食料にすると約52食分の支援ができます。

マラウイの方からは、現在のマラウイの現状や支援への感謝の言葉がありました。子どもたちは、自分たちのちょっとしたボランティア活動がしっかりと役に立っていることを改めて実感できた貴重な時間でした。



マラウイの方へブレゼントを渡す児童

環境保全を地元の

『紙おむつリサイクル』から学ぶ 宅峰中学校



宅峰中学校では、大牟田市にある紙おむつリサイクル事業を手がける『トータルケア・システム』社からGTを迎え、授業を行いました。高齢化の進展で紙おむつの使用量が増加傾向にある中、焼却の際に発生する二酸化炭素(CO2)排出量の削減につなげる紙おむつリサイクルの重要性や、し尿を含み焼却しづらいという課題の克服、建築建材紙への再生技術などを学びました。紙おむつリサイクルという高度な技術をもつ会社が大牟田にあることに気づき、生徒達は、郷土大牟田への誇りを持つことができました。



講話の様子

桜プロジェクトを通した吉野のまちづくり

吉野小学校



吉野小学校では、学年段階に応じて地域の方とのふれあいや協働することを通して、地域のまちづくりに一人一人が関わっています。特に5年生は「吉野小桜プロジェクト」において、地域の方と一緒に桜でつなぐ吉野のまちづくりの活動に取り組んでいます。校内の活動では地域の吉野さくら絆プロジェクトの方々に管理方法についてアドバイスをいただき、老木化した木や新しい木などそれぞれの桜の状況にあった管理を行っています。1月には、「吉野さくら絆プロジェクト」の方と一緒に通玄寺に植樹を行いました。吉野を桜が美しく活気ある町にしようと頑張っています。



桜プロジェクトの活動の様子